

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 16 日現在

機関番号：32604

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284135

研究課題名(和文)戦時上海におけるメディア(新聞・雑誌)の総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive Study of Media (Newspapers and Magazines) in Wartime Shanghai

研究代表者

石川 照子 (Ishikawa, Teruko)

大妻女子大学・比較文化学部・教授

研究者番号：50316907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,400,000円

研究成果の概要(和文)：1. 関連史料の調査・収集・・・合同調査4回(杭州、上海、南京、北京、長春、ハルビン、満洲里、大連)、各自の史料調査を実施。2. 研究会・ワークショップの開催・・・6回の研究会開催、4回のワークショップ開催・参加。3. 国際シンポジウムの開催・・・2015年10月3～4日に奈良大学で、関西の中日文化協会と共催で「戦時上海におけるメディアー文化的ポリティクスの視座からー」を公開開催。4. 論文集と雑誌『アジア遊学』の刊行計画・・・研究成果を論文集(研文出版、2016年7月)、『アジア遊学』特集号(勉誠出版、2016年12月)として刊行予定。5. ホームページの構築・運営・・・調査・収集した史料の公開。

研究成果の概要(英文)：(1) Survey and collection of materials, with joint research(4 times) and each member collecting historical materials. (2) We held six research meetings, and held and participated in four workshops. (3) We held an international symposium in collaboration with the Kansai Sino-Japanese Cultural Association at Nara University on October 3-4, 2015; the symposium theme was "Media in Wartime Shanghai from the Perspective of Cultural Politics." (4) The results of our research will be published in two forms: we are in the process of editing the volume of essays which will be published in July 2016 by Kenbun Shuppan (研文出版), and a special issue of the journal Ajia Yugaku (アジア遊学) which will be published in December 2016 by Bensei Shuppan (勉誠出版). (5) Construction and maintenance of a homepage which will provide access to the historical materials that we have collected.

研究分野：中国近現代史

キーワード：上海 メディア 日中戦争

1. 研究開始当初の背景

さまざまなイデオロギーが交錯し、政治的な矛盾が入り乱れる<グレー・ゾーン>といわれる戦時上海のメディア空間のあり方を考察し、それにより東アジアの<メディア戦>の中枢でもあった戦時上海の歴史的な実相を読み解き、今日ますます激化する国際宣伝及びインテリジェンス戦略の歴史的な淵源を明らかにするという事を、研究の意図とした。

日本における日中戦争史研究の主流は、従来は軍事史・外交史であったが、最近では経済史・社会史・文化史に重点を置き日中戦争史が問い直されている。とりわけ、日本の中国に対する文化的侵略と中国の文化的・精神的な抵抗が大きく取り上げられるようになってきた。しかし、日中戦争の重要な一環である<メディア戦>の実態はほとんど明らかにされておらず、その最も激しい戦場であった「国際都市」上海における戦時上海メディアの実態についても十分に検証されていない。

さて、本研究は、1990年に設立された日本上海史研究会が推進してきた戦時上海に関する共同研究がその基盤となっている。日本における戦時上海研究の先導者であった古厩忠夫(2003年逝去)は、日本の中国侵略の主体も一つでなく侵略の仕方もさまざまな方法があり、一方抵抗する中国の側にもさまざまな矛盾があったことに注目し、特に上海における対日協力者問題と共に<侵略と抵抗>の二元論的論理で把握できない<グレー・ゾーン>の問題を提起した。このような古厩の問題提起を受けて日本上海史研究会では、2001年度～2003年度に日中歴史研究センターの研究助成を受けて共同研究「日中戦争期の上海に関する歴史的研究」を実施し、その研究成果を高綱博文編『戦時上海 1937～45年』(研文出版、2005年)として刊行した。同書『戦時上海』

は日中韓の研究者 11名の論文によって、戦時上海を<「国際都市」上海の支配と変容><戦時上海の都市文化><抵抗・協力・グレー・ゾーン>の3つの側面から解明したものである。その主要な課題は、<侵略と抵抗>または<「愛国者」と「漢奸」(売国奴)>という単純な二分法では到底把握できない戦時上海の<グレー・ゾーン>を描き出すことにあった。その後も日本上海史研究会は戦時上海の<グレー・ゾーン>研究を継続しており、日本占領下の上海において発行された日本の国策新聞『大陸新報』(1939～45年)の検討会を定期的に行い、戦時上海の文化・文学活動を研究している関西の『大陸新報』研究会とも提携して合同研究会を持ち、昨年11月には日本上海史研究会・『大陸新報』研究会および早稲田大学の拠点とする20世紀メディア研究会との共催「『大陸新報』をめぐるワークショップ」を開催した。引き続き2012年12月には「戦時中国・上海に関するメディア史料研究の新たな可能性」をテーマとして第2回ワークショップを開催する。

要するに、日本上海史研究会はこれまでの戦時上海に関する共同研究を通じて、諸イデオロギーが交錯し政治的矛盾が重層化する戦時上海の歴史像を明らかにするためには、戦時上海のメディアの実態を徹底的に調査・検証し、<グレー・ゾーン>問題がとりわけ顕在化したところの戦時上海のメディア空間のあり方を総合的に考察することが必要であると構想するに至った。また、本研究は戦時上海 = 「国際都市」上海の文化的特性を視野にいれたところの「多言語横断」・「多領域横断」な国際的・学際的な共同研究を目指すものである。

2. 研究の目的

本研究は、戦時期(1937～45年)上海にお

いて刊行されていた邦文・中文・欧文の新聞・雑誌メディアを発掘および整理・公開し、それを踏まえて日本占領下における上海メディアの実態を「多言語横断」・「多領域横断」の視点から、日中および欧米の研究者の協力を得て多角的に分析することを目的とした。

(1) 本研究期間中に明らかにすること

本研究は、研究期間(平成25年度・26年度・27年度)内において、その前半においては、戦時上海メディアの実態に関して邦文・中文・欧文の新聞・雑誌等のメディアを中心に調査・収集して「関係目録」を作成し、その概要を含めて日本上海史研究会のホームページに公開する。また、主要な新聞・雑誌はデジタル・データ化した上でサーバーに載せて国内外の共同研究者が閲覧検索することのできるシステム(**Social OCR**)を構築し、著作権等の問題のない史料はインターネット上で公開する。なお、日本上海史研究会ですでに戦時上海メディア関係の新聞・雑誌を最も多く所蔵する上海図書館については調査済みであり、日本軍当局の占領地文化工作の一環として発刊された邦字紙『大陸新報』、華字紙『新申報』のデジタル版を作成し研究を開始しており、中国でデジタル化された『申報』・『文匯報』、イギリス系新聞の代表である『North China Daily News』(マイクロ版あり)を使用しているが、さらに研究を進展させるために次のような上海図書館所蔵の新聞・雑誌のマイクロ化、デジタル化し、同図書館で欠けている箇所を国内外で調査・収集する。邦字紙『東亜日報』、『支那情報』、『揚子江』、汪精衛政権の機関紙『中華日報』、上海共同租界で発行されていた、イギリス系新聞『Shanghai Times』、アメリカ系新聞『Shanghai Evening Post and Mercury』、アメリカ系国民党準機関紙『中美日報』、フランス系機関紙『Le Journal de Shanghai』、ロシア語新聞『Shankhaiskaia Zaria』、ソ連系新聞、ナチス系新聞、ユダヤ人社会情報誌等の新聞・雑誌である。そ

の後半においては、収集した史料については、日本側メディア・中国側メディア・国際メディアが複雑に交錯する戦時上海の政治・文化・メディア空間のあり方を多角的な視座から総合的・歴史的に分析する。分析結果は、定期的で開催する研究会での各自の分析・研究報告を予定しており、また26年度以降にはワークショップや日中および欧米の研究者と共同で国際シンポジウムを開催して研究成果を公表し、論文集を刊行する。

(2) 本研究の学術的な特色・独創性

第一に、戦時上海メディアの実態に関して邦文・中文・欧文の新聞・雑誌等のメディアを中心に調査・収集し、日本占領下における上海メディアの全体像・実像に迫ろうとするものである。戦時上海メディアに関する総合的・実証的な検証により、その<グレー・ゾーン>と言われる当該期上海の政治・文化・メディア空間のあり方を明らかにするものである。第二に、戦時上海メディアに関してまた日中や欧米の研究者の協力を得た国際的な共同研究でもある。そして、日本語・中国語・英語・フランス語・ロシア語という複数の言語を駆使して史料の分析に当たる「多言語横断」的な研究を目指すものである。第三に、戦時上海メディアに関心を持つすべての研究者に開かれた学際的な研究を目指すものであり、収集した史料はインターネット上で共同研究に参加した研究者に閲覧検索可能なシステムを構築し、史料の公開にも重点を置くものである。

3. 研究の方法

(1) 日本上海史研究会を基盤として戦時上海メディアに関する共同研究体制を組織した。

班リーダー

<研究総括> 石川照子(代表者)・<総括補佐>高綱博文(分担者)

<邦文メディア班> 高綱博文(分担者)・大橋毅彦(分担者)・陳祖恩(協力者)・堀井弘一郎(協力者)・武井義和(協力者)・

<中文メディア班> 岩間一弘(分担者)・邵迎建(分担者)・鈴木将久(分担者)・馬軍(協力者)・徐静波(協力者)

<欧文メディア班> 石川照子(代表者)・小浜正子(分担者)・藤田拓之(協力者)・関根真保(協力者)

(2) 戦時上海メディアに関して史料を調査しマイクロフィルムとして収集、最新のツールを利用してデジタル化してネット上での閲覧検索システムを構築した。

(3) 史料分析を進め、定期的に研究会、国内外で開催するワークショップや国際シンポジウムで研究成果を報告・公表した。

(4) その成果は、日本上海史研究会のホームページで適時公開するとともに、共同研究のまとめとして論文集を刊行することが決定している。

4. 研究成果

(1) 関連史料の調査・収集

関西の中日文化協会研究会等との合同調査を、4回実施した。主な調査地は、杭州、上海、南京、北京、長春、ハルビン、満洲里、大連である。その他に、研究分担者それぞれが中国、香港、台湾、アメリカ等で、各自の史料調査を行った。それらの成果は、随時論文や研究発表の形で公開されている。

(1) 研究会・ワークショップの開催

期間中、6回の研究会を開催して、各自の研究報告の他に、史料分布状況の報告・情報の共有、研究の進捗状況の確認、研究課題の確認・役割分担の打ち合わせ、今後の研究体制の方向性・方途についての検討等を行った。また、4回のワークショップの開催、及び中日文化協会研究会主催のワークショップへ参加した。主催したワークショップは、「近

代上海における日本文化を考える」(2013年8月31日。於上海。中日文化協会研究会と合同開催)、「戦時上海のグレーゾーンと文化的ポリティクス 中日文化協会上海分会と日中合作映画の考察を通して」(2014年1月12日。於大阪。中日文化協会研究会と合同開催)、「占領地・植民地における<グレーゾーン>を考える 国際比較の視点から」(2014年8月9日。於東京)である。また、中日文化協会研究会主催「戦時上海の文学空間を考える <中日文化協会>を起点として」(2015年1月11日。於大阪)に参加した。

(3) 国際シンポジウムの開催

2015年10月3～4日に奈良大学で、関西の中日文化協会と共催で「戦時上海におけるメディア 文化的ポリティクスの視座から」を公開開催した。メールやポスターによる宣伝の結果、30名以上の出席者を得ることができた。なお、同シンポジウムでは、研究代表の石川照子、研究分担者の高綱博文、大橋毅彦、邵迎建、小浜正子が研究報告を行い、研究分担者の鈴木将久、岩間一弘がコメントを担当した。また、研究協力者である陳祖恩(上海・華東大学)、徐静波(上海・復旦大学)、馬軍(上海社会科学院歴史研究所)、ポシェック・フー(アメリカ・イリノイ大学。書面参加)も、研究報告を行った。

(4) 論文集と雑誌『アジア遊学』の刊行計画

上記(3)の国際シンポジウム、その他の研究成果を、論文集(『戦時上海のメディア 文化的ポリティクスの視座から』研文出版、2016年7月予定)、『アジア遊学』特集号(「戦時・上海・グレーゾーン 抵抗と協力のはざままで」勉誠出版、2016年12月予定)として刊行されることが既に決定している。

(5) ホームページの構築・運営

国内外で調査・収集した史料のホームページでの公開を通して、情報の共有と発信を行った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

高綱博文、「中日戦争下日本帝国向上海視線」、史林、査読無、1巻、2016、1-8

鈴木将久、「日本占領下上海文化の「グレーゾーン」をどう考えるか」、史潮、査読無、78巻、2015、25-43

小浜正子、「歴史教育のジェンダー主流

化へ向けて 日本学術会議ジェンダー史分科会などの取組から 』、大阪大学歴史教育研究会他編『史学会 125 周年リレーションポジウム 1 教育が開く新しい歴史学』、査読有、2015、86 - 103

邵 迎建、「從 “ LYCEUM ” 到 “ 蘭心 ” 』、大橋毅彦他編『上海租界与蘭心大戲院』上海人民出版社、査読無、2015、55 - 76

石川 照子、「日本人女学生の第一次上海事変体験 上海日本高等女学校校刊の考察 』、大妻比較文化、査読無、16 卷、2015、24 - 34

高綱 博文、「上海日本僑民社会的形成、組織及其経済「權益」』、台湾師大歴史学報、査読無、51 卷、2014、243 - 282

大橋 毅彦、「アポリアとしての<正しき>中国理解への道 租界返還後の「大陸新報」掲載文学関連記事をめぐって 』、日本文藝研究(関西学院大学)、査読無、66 - 1、2014、107 - 134

石川 照子、「近代上海のキリスト教とジェンダー』、歴史評論、査読無、765 号、2014、28 - 36

大橋 毅彦、「「大陸新報」の内包と外延』、日本近代文学、査読有、第 89 集、2013、174 - 178

岩間 一弘、「大衆化するシノワズリー 日本人旅行者の上海イメージと上海の観光都市化』、現代中国、査読無、87 号、2013、17 - 32

〔学会発表〕(計 5 件)

石川 照子、「戦時上海のグレーゾーンとメディア 『上海婦女』を通して 』、国際シンポジウム「戦時上海におけるメディア 文化的ポリティクスの視座から 』、2015 年 10 月 3 日、奈良大学(奈良県奈良市)

高綱 博文、「日中戦争下の帝国日本の上海へのまなざし』、同上

大橋 毅彦、「<窓>と<繁星> 文学者・室伏クララのために 』、同上

邵 迎建、「木蘭従軍 から 万世案流芳 春江遺恨 へ』、同上

小浜 正子、「戦時上海のメディアにみるセクシュアリティ』、同上

〔図書〕(計 2 件)

高綱 博文・石川 照子・竹松 良明・大橋 毅彦編、研文出版、『戦時上海のメディア 文化的ポリティクスの視座から 』、2016(予定)、総ページ数未定

堀井 弘一郎・木田 隆文編、勉誠出版、『アジア遊学 特集・戦時・上海・グレーゾーン 抵抗と協力のはざままで 』、2016(予定)、総ページ数未定

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等
<http://shanghai-shi.seesaa.net/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 照子 (ISHIKAW, Teruko)
大妻女子大学・比較文化学部・教授
研究者番号：50316907

(2) 研究分担者

高綱 博文 (TAKATSUNA, Hirofumi)
日本大学・通信教育部・教授
研究者番号：90154799

大橋 毅彦 (OHASHI, Takehiko)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：60223921

鈴木 将久 (SUZUKI, Masahisa)
一橋大学・言語社会研究科・教授
研究者番号：00298043

邵 迎建 (SHO, Geiken)
徳島大学・大学院ソシオ・アーツ・アンド・
サイエンス研究部・教授
研究者番号：30375315

小浜 正子 (KOHAMA, Masako)
日本大学・文理学部・教授
研究者番号：10304560

岩間 一弘 (IWAMA, Kazuhiro)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：10364902

(3) 連携研究者
なし

(4) 研究協力者

堀井 弘一郎 (HORII, Koichiro)
武井 義和 (TAKEI, Yoshikazu)
木田 隆文 (KIDA, Takafumi)
渡辺 千尋 (WATANABE, Chihiro)
小笠原 裕 (OGASAWARA, Hiroshi)
戸塚 麻子 (TOTSUKA, Asako)
渡辺 和行 (WATANABE, Kazuyuki)
柴田 哲雄 (SHIBATA, Tetsuo)
三好 章 (MIYOSHI, Akira)
渡邊 ルリ (WATANABE, Ruri)
藤田 拓之 (FUJITA, Hiroyuki)
関根 真保 (SEKINE, Maho)
及川 淳子 (OIKAWA, Junko)
三品 英憲 (MISHINA, Hidenori)
西村 正男 (NISHIMURA, Masao)
馬 海龍 (BA, Kairyu)
徐 静波 (JO, Seiha)
陳 祖恩 (CHIN, So'on)
徐 青 (JO, Sei)
李 嘉冬 (Li, Katou)
葛 涛 (KATSU, Tou)